女たちのアマチュア劇団――それは芸術か、セラピーか、革命か？

舞台はサンフランシスコ。元受刑者とHIV/AIDS陽性者が、
自分たちの人生を芝居にした。暴力にさらされ、
“どん底”を生き抜いてきた女たちの現実とファンタジー。
舞台で、日常で、声をあげ、呼応トークバックする女たち。
彼女たちの演劇は芸術か、 治療か、それとも革命か？
芝居を通して自分に向き合い、社会に挑戦する
8人の女たちに光をあてた、群像ドキュメンタリー。

どんなにサイテーな人生だったとしても、恥じることなんてない。顔をあげて、語るのよ!

『Lifers ライファーズ　終身刑を超えて』から10年。坂上香監督はこの映画の制作に8年を費やした。
“どん底”を味わった女たちが、芝居を通して新しい生き方を模索する姿に監督自身が強く心を揺さぶられ、沈黙を強いられている人々にどうしても伝えたい、と映画の制作を決意した。多くの困難を乗り越え、8年の歳月を経て『トークバック　沈黙を破る女たち』が完成。
いま、スクリーンと舞台、そして新たな人生の幕があがる――。

アタシたちをなめんじゃない！

虐待、強姦、ドラッグ、売春、エイズ……
女たちの過去は惨憺たる経験だ。
だが、傷ついた過去を否定せずに、
まるごと抱きしめることで、女たちは前を向く。
それまでよりも、もっとつよく、やさしくなって。
坂上監督の「トークバック」は、その証言の記録だ。

上野千鶴子
（社会学者・認定NPO法人wan理事長）

特殊な環境の、特殊な女性たちと思って見ていたのだけれど、
終盤のある場面で、そうじゃない、と気づいた。
ある場面に、私自身が自分でも驚くくらい、励まされたから。
これは懸命に生きる「ごくふつうの」女性たちが、
「ごくふつうの」私やあなたを、そんなふうに励ます映画だ。

角田光代（小説家）

それぞれのHERSTORYが心に深く響く。
今度は、「あなた」があなたのSTORYを描く番だ。

落合恵子（作家）

トークバック talk backとは？

言い返す、口答えするというネガティブな意味で使われることが多い。しかし、本映画では、沈黙を強いられてきた女性たちが「声をあげる」ことや、人々と「呼応しあう」というポジティブな意味で使っている。映画に登場するtalk back session（トークバック・セッション）は、上演後に持たれる質疑応答の場。

坂上香 監督作品
「Lifers ライファーズ　終身刑を超えて」

トークバック
沈黙を破る女たち

監督・製作・編集｜坂上 香
共同プロデューサー｜麻生 歩
撮影｜南 幸男
録音｜森 英司
音楽｜伊藤彰教
ポストプロダクション｜Neo P&T
製作協力｜トークバック応援団
製作・配給｜out of frame
宣伝｜スリーピン

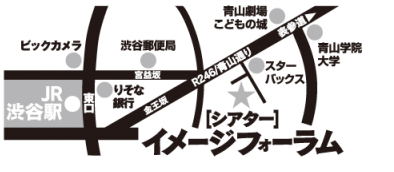
www.talkbackoutloud.com
facebook.com/talkbackoutloud
twitter.com/TalkBackDoc

ネット連載エッセイ 坂上香監督の“トークバック”製作ノート
wan.or.jp/reading/?cat=72

ドキュメンタリー映画｜2013年｜日本｜HD｜カラー｜英語｜日本語字幕付｜119分

3月22日(土)～ モーニング&レイトショー

上映時間　10:45～ ｜ 20:50～

特別鑑賞券 ￥1500 絶賛発売中!!（劇場窓口・プレイガイドにて 当日：一般￥1800、学生￥1500のところ）
レディース8（8人以上の女性が同時に観劇する場合）各人￥1000
学生 ￥1500／高校生以下・シニア・会員 ￥1000

[シアター]
イメージフォーラム
【自由席・整理券制・定員入替制】
渋谷駅より徒歩8分、宮益坂上がり、
次の信号スターバックスコーヒー右手入る
tel.03-5766-0114　www.imageforum.co.jp